

下弓削川・江川総合内水対策計画

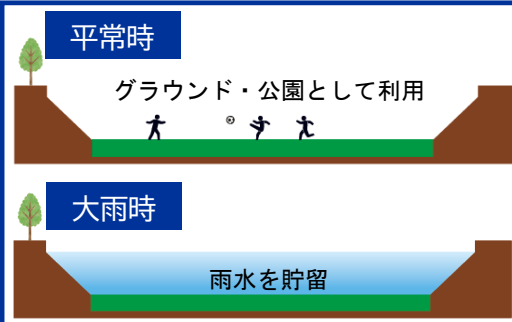
平成30年7月の大雨により多くの家屋等が浸水する被害が発生した下弓削川・江川流域において、国・県・市が連携して令和2年3月に「下弓削川・江川総合内水対策計画」を策定し、令和2年度より対策事業に取り組んでいます。

また、ハード対策のほかにソフト対策として、水門・樋門の開閉状況をHPで公表、ウェブ版ハザードマップの導入等を実施しています。

ハード対策

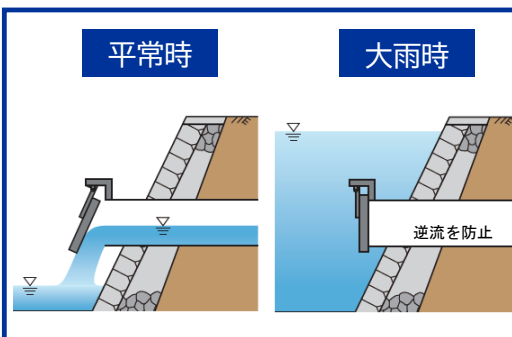


久留米市が実施する主なハード対策



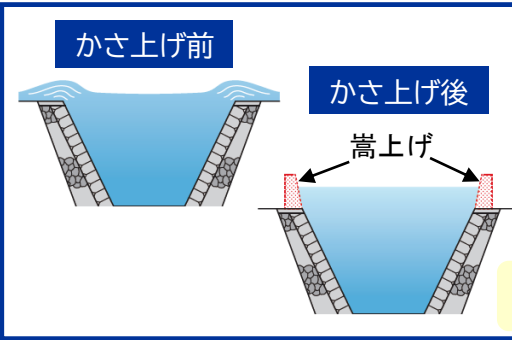
【貯留施設】

平常時は、グラウンドや公園として利用します。
大雨時は、河川を流れている雨水をグラウンド等へ貯留して、流れる水の量を軽減します。貯留した雨水は、河川の水位が下がってから放流します。



【フラップゲート(逆流防止扉)】

平常時は、水の流れて扉が開き、河川へ排水します。
大雨時に河川の水位が上昇すると、扉が閉まり、河川からの逆流を防止します。



【護岸かさ上げ】

護岸を高くして河川の水位が上がることに備える施設です。

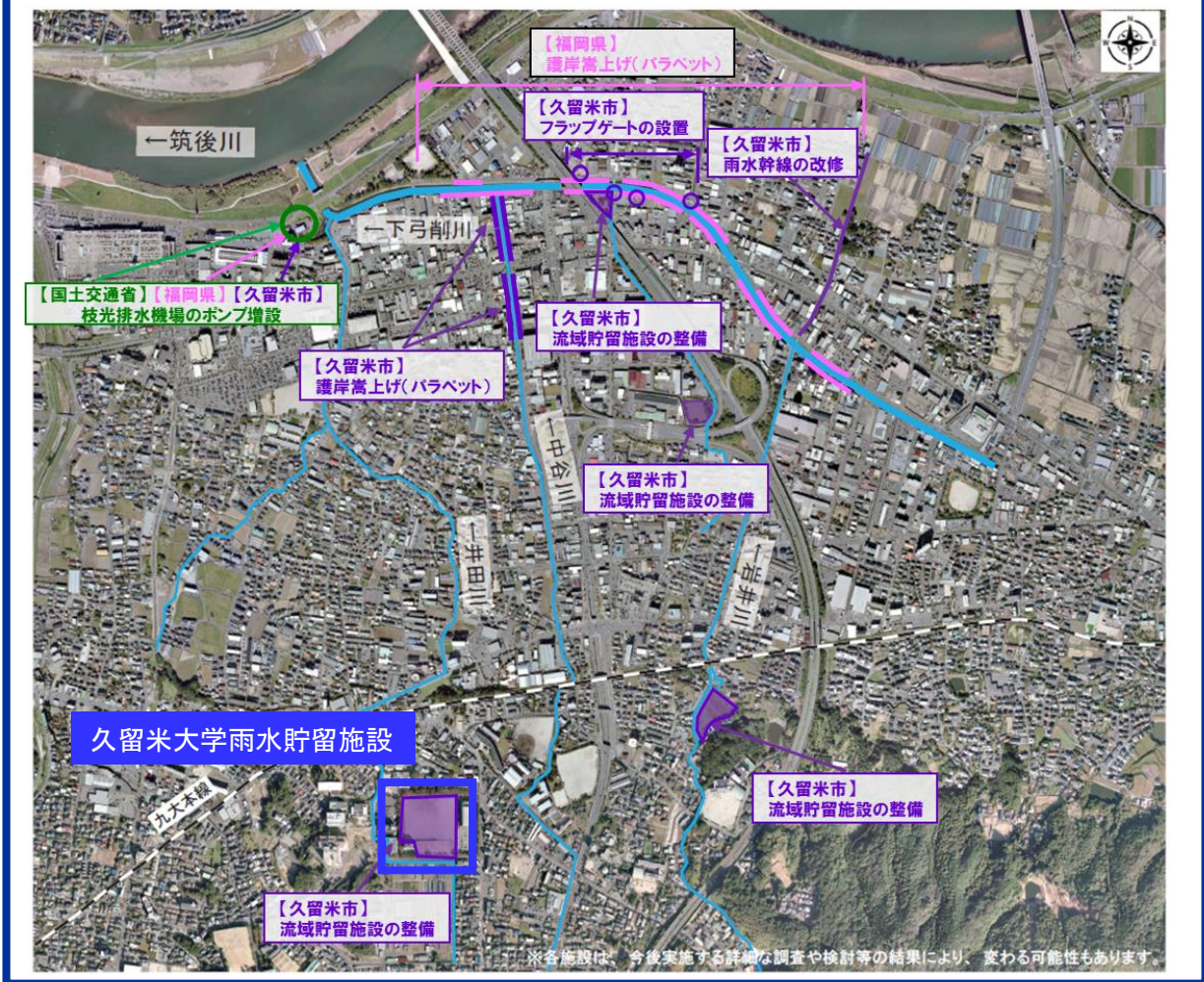
ハード・ソフト対策を併せて実施します。



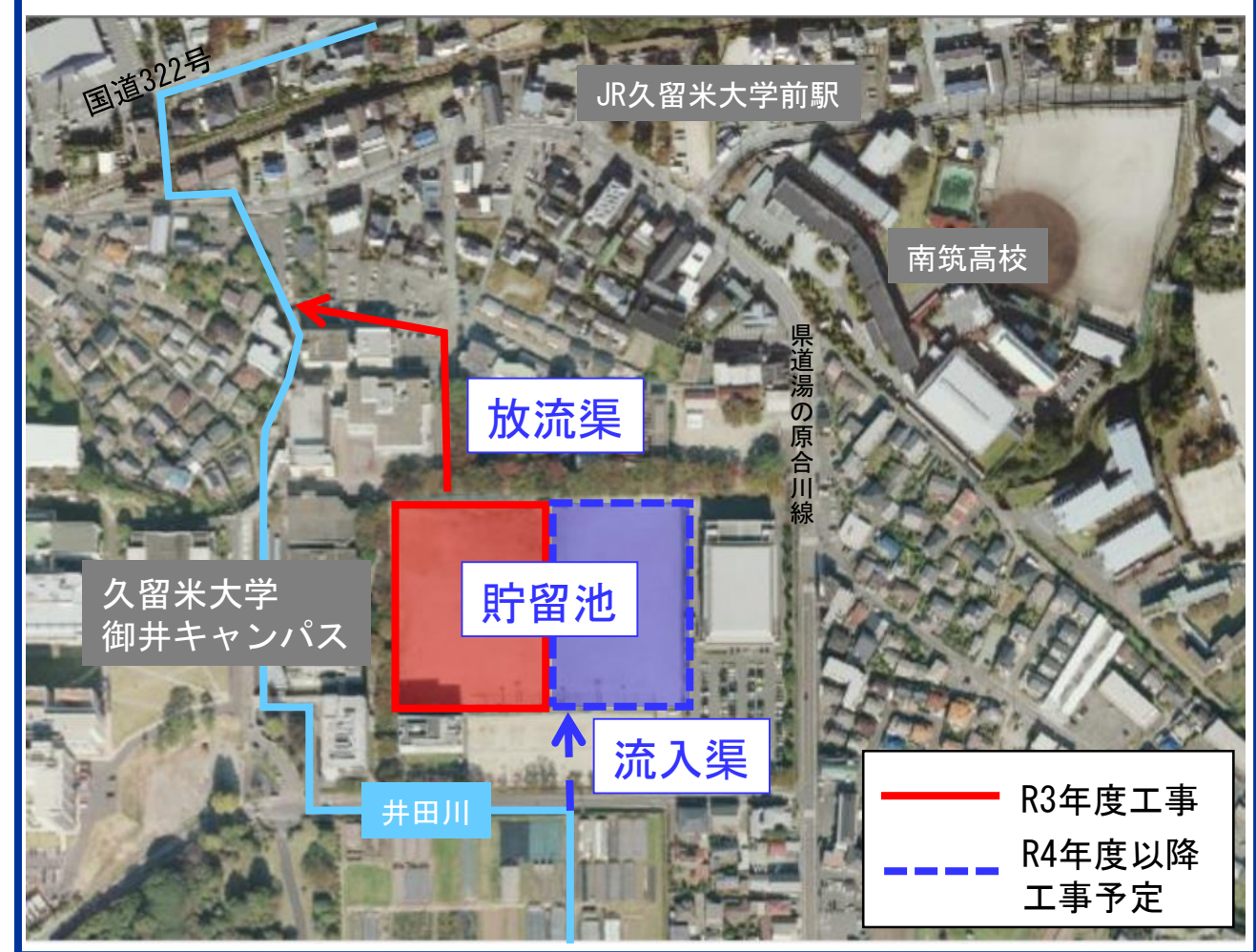
事業担当部署：久留米市役所 都市建設部 河川課

浸水被害を軽減するため久留米大学と協力して雨水を貯める施設をつくっています。

下弓削川・江川総合内水対策計画 ハード対策概要



整備箇所詳細図 【久留米大学御井キャンパス内】



概要

この事業は、国・県・市で策定した「下弓削川・江川総合内水対策計画」に基づいて、久留米大学内に雨水貯留施設を整備するものです。

事業の効果

大雨時に井田川に流れる雨水を久留米大学グラウンドに貯めることで、大学周辺地区や井田川流域の浸水被害の軽減を図ります。

貯留イメージ

平常時
平常時はグラウンドとして使用します。



貯留時
流入した雨水をグラウンド内に貯留します。貯留量は25mプールの約50杯分です。

